

坪井の石造物

この石塔は、庚申塔といいますが、ばたなどに建てられました。坪井の人々が、日常生活の中で村のウチとソトとの境やその近くの道意識して、この場所に庚申塔を建てました。そして、ここを庚申塚と呼んでいます。

庚申塔のうち宝永元年（一七〇四年）銘のもの（左から三番目）は、日本大学理工学部の敷地内にあったものです。

また、この近くには太山堂の石造物があります。



① 庚申塚
 庚申塔は、庚申講（講とは、同じ信仰を持つた人たちの集まり）の人たちによって建てられました。出でて、天帝にその人の悪い行いを告げに行く。三戸という虫がぬけて変わってしましました。だから、庚申の晩は眠らずに過ごす。天帝がそ

② 太山堂
 もとは、ここが坪井の産土社（この地域では、「おぼすな」と呼ばれています。）で、二十六年、養塔が現存しています。大日如来像を祀っています。入り口

③ 道祖神
 道の神の総称で、この道祖神は、道祖神と刻まれています。村の入り口

④ 馬頭観音
 仏教の中の信仰対象を「耳だれ様」と呼んでいます。村の入り口

馬頭の中、信仰対象を「耳だれ様」と呼んでいます。村の入り口

供養として、江戸時代中期から昭和初期にかけて多く建てられました。

昭和十九年六月

坪井
 町教育委員会